

農業全体の景況感が8年ぶりのプラスに転換 — 平成24年農業景況調査結果の概要 —

日本政策金融公庫は3月、「平成24年農業景況調査」によって、農業全体の景況感を示す景況DIが8年ぶりのプラスとなったことを明らかにした。東日本大震災の影響等でマイナス幅を拡大した平成22年から2年続けての改善となった。

1. 平成24年は多くの作目で景況DIがプラスに転換

平成25年1月に実施した「平成24年農業景況調査」では、24年の経営が23年の経営と比較してどう変わったかについて、スーパーL資金及び農業改良資金の融資先（調査対象者）からの判断をもとに景況DIとして算出した。この景況DIは、経営が良くなった場合を1、変わらない場合を2、悪くなった場合を3として、調査対象者の中の「1が占める割合（%表示）」から「3が占める割合（同）」を差し引いて求めた値であり、経営が良くなったという回答率が、悪くなったという回答率を上回った場合にプラスの値となる。

平成24年の農業全体の景況DIは、23年のマイナス7.9から21.1ポイント上昇し、13.2となった。作目別では、稲作が北海道でほぼ横ばいのプラス43.9（前年43.5）、都府県ではプラス36.2（同13.1）と大幅に改善した。また、施設野菜がマイナス15.7からプラス19.9に、果樹がマイナス11.7からプラス16.0に、露地野菜がマイナス14.0からプラス6.7に改善している。

畜産部門の景況DIをみると、採卵鶏がプラス8.4からマイナス40.6に、養豚がマイナス6.2からマイナス38.1に大きく下降したのに対して、肉用牛はマイナス47.4からプラス8.3に大きく上昇した。このような状況の中、酪農は北海道でマイナス26.9からマイナス2.2に、

都府県でマイナス24.2から0.0に上昇し、両地域ともにマイナスの幅が縮小している。酪農については、24年度の生乳計画生産が増産型に転換し、実績も前年に対して増加したことが影響したと考えられている。

2. 景況DIは平成25年も引き続き上昇の予想

同調査では、平成25年の景況予想を見通しDIとして公表している。見通しDIは、25年の経営が24年の経営に比較して良くなると予想される場合を1、変わらないと予想される場合を2、悪くなると予想される場合を3とし、景況DIと同じ方法で集計した値である。

農業全体の見通しDIは、プラス9.2にプラス幅が縮小しているものの、25年の景況は24年に引き続き改善すると予想されている。この見通しDIは、ほとんどの作目でプラス、つまり景況はさらに改善すると予想されているが、とくに施設野菜（24.1）、果樹（17.6）、露地野菜（17.0）で大きな景況改善が期待されている。

酪農については、北海道でマイナス2.2からプラス1.7に景況が好転し、都府県でも0.0からプラス7.3に景況改善がさらに進むことが予想されている。これについては、25年度の加工原料乳生産者補給金の単価が1kg当たり35銭引き上げられたこと、生乳計画生産の目標数量が前年度実績を下回らないこと等が要因として指摘されている。

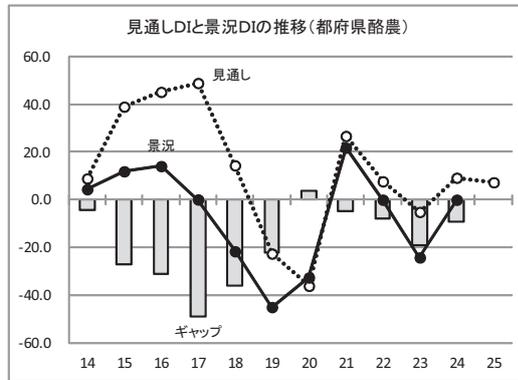
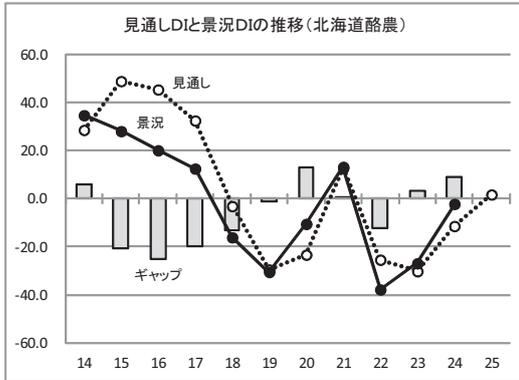
わが国農業の作目別景況DIの推移

	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年見通し
農業全体	1.8	▲ 2.6	▲ 5.9	▲ 18.0	▲ 6.6	▲ 17.4	▲ 25.2	▲ 7.9	13.2	9.2
水稲（北海道）	▲ 37.9	▲ 22.7	▲ 8.1	▲ 16.0	24.5	▲ 29.0	▲ 36.9	43.5	43.9	▲ 0.4
水稲（都府県）	▲ 23.0	▲ 2.8	▲ 7.8	▲ 21.4	9.1	▲ 11.7	▲ 55.5	13.1	36.2	15.5
露地野菜	11.6	▲ 5.0	7.7	▲ 3.1	▲ 5.6	▲ 15.4	▲ 2.0	▲ 14.0	6.7	17.0
施設野菜	3.8	▲ 6.1	▲ 0.5	▲ 4.9	▲ 10.4	▲ 23.8	▲ 6.9	▲ 15.7	19.9	24.1
果樹	▲ 0.7	▲ 18.6	8.6	▲ 4.9	▲ 13.0	▲ 34.1	▲ 0.9	▲ 11.7	16.0	17.6
酪農（北海道）	20.1	12.5	▲ 16.1	▲ 30.5	▲ 10.5	13.2	▲ 37.8	▲ 26.9	▲ 2.2	1.7
酪農（都府県）	14.1	0.1	▲ 21.6	▲ 45.0	▲ 32.6	21.8	0.0	▲ 24.2	0.0	7.3
肉用牛	36.8	30.9	18.0	▲ 14.1	▲ 33.4	▲ 20.7	▲ 7.4	▲ 47.4	8.3	7.7
養豚	34.3	23.6	11.6	16.9	▲ 28.0	▲ 52.4	15.5	▲ 6.2	▲ 38.1	▲ 11.6
採卵鶏	34.0	29.5	4.4	▲ 33.9	▲ 4.8	▲ 18.1	14.1	8.4	▲ 40.6	15.7

3. 地域差がみられる酪農の景況予想

すでに述べたように、25年の酪農景況は北海道、都府県ともに前年に比べて改善することが予想されているものの、両地域の見通しDIには56ポイントの差がみられる。これは、前年の景況感の地域差（北海道景況DIはマイナス22、都府県景況DIは0.0）が増幅された結

果となっている。換言すれば、いち早くマイナスの景況感から脱却した都府県の方が、縮小したとはいえマイナスの景況感に止まった北海道に比べて、景況がいっそう改善すると予想する調査対象者の割合が多かったことを反映している。



さらに、この見通しDIと景況DIの関係には、いくつかの特徴がみられる。つまり、北海道、都府県ともに、見通しDIと景況DIとは併行するように上昇と下降を繰り返しており、調査対象者は景況の変化をある程度まで正確に予想していることがうかがえる。しかし、見通しDIと景況DIのギャップを比べると、都府県の方が北海道よりも大きく、かつ都府県では見通しDIが景況DIをほとんどの時期に上回っていることから、都府県の調査対象者の方が景況の変化を楽観視しているように

みえる。
すでに述べたように、都府県の見通しDIは24年と25年の2度に亘ってプラスとなり、景況は改善傾向を持続すると予想されている。しかし、本稿を執筆している時点では25年度の乳価がどのような水準で決着するのか不透明であるが、飼料価格の高騰等により酪農家の経営リスクがいっそう増大することも予想されており、今後とも、酪農をめぐる情勢の変化を注視する必要がある。

書籍紹介

中央酪農会議50年の足跡

本誌は、中央酪農会議50年の活動の記録を取りまとめたものです。酪農関係者の業務に参考となる本誌を、ぜひご一読下さい。



中央酪農会議50年の足跡	
目次	
あいさつ	中央酪農会議会長 高取 肇 4
総辞	農林大臣若生野村官房長官 原田 英男 6
中央酪農会議50年の足跡	
概観	7
年次別主な活動	87
各年度の上り活動と今後の展望	125
中央酪農会議創立50周年記念特集	143
中央酪農会議創立の「原点」を語る — 不足ない状態で当時の時代背景とともに — (日本酪農乳業史研究会ファンダクション)	
総代役員	157
職員一覧	165

A4判 168P
平成25年6月21日 発行